

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

## タマネギべと病越冬罹病株の抜取りの徹底について

県内の早生タマネギにおいて、べと病の初発発生が確認されました。発病株を放置すると、長期間にわたり分生胞子が飛散し伝染源となるため、ほ場の見回りを行い、見つけ次第、抜取り処分する必要があります。特に、植え付け時期が早い極早生及び早生ほ場や前作で多発生した圃場では早期から発病する場合がありますので、注意が必要です。

については、下記事項を参考に生産者への指導をお願いします。

### 記

#### 1. 発生概況

- (1) 1月23日に、県内の11月15～20日移植の早生タマネギ（マルチ栽培、トンネルなし）の3ほ場で、べと病越冬罹病株の発生を認めた（写真1、2）。
- (2) 同日、農業試験研究センター内の試験圃場（11月21日移植、品種：七宝早生7号、マルチ栽培、6月に前作の発病残さを鋤き込んだほ場）においても、越冬罹病株の初発生を認めた。



写真1 極早生タマネギに発生した越冬罹病株（現地ほ場、平成30年1月23日撮影）



写真2 早生タマネギに発生した越冬罹病株（現地ほ場、平成30年1月23日撮影）

#### 2. 防除対策

- (1) 圃場の見回りを行い、越冬罹病株を見つけたら直ちに抜取り処分する。厳寒期の発生は極めて少ないため、観察は丁寧に行う。（後述する「越冬罹病株の特徴」、「越冬罹病株の抜き取りの注意点」を参照）
- (2) 胞子が見られても、厳寒期は本病の伝染が起こりにくい。そのため、薬剤防除は主要な伝染が始まる2月下旬から実施する。

### 【越年罹病株の特徴】

葉の光沢がなくなり淡黄緑色になり、生育も遅れ、葉はやや湾曲する。15℃前後の多湿条件下で、全身に白色のつゆ状または暗紫色の胞子を生じる（写真4～6）。



写真3 生育が抑制された越年罹病株



写真4 葉が湾曲し、葉色が薄く光沢がない症状



写真5 葉が湾曲し、まだら状の症状



写真6 葉身に形成された大量の分生胞子

### 【越年罹病株抜取りの注意点】

1. 分生胞子は乾燥条件で発芽能力が急激に低下するので、分生胞子の形成が見られるときは、必ず晴れて気温が上昇し、湿度が下がった午後、葉の表面が乾いてから抜取りを行う。
2. 抜取り作業中に健全株へ伝染させないため、抜き取った株はすぐにビニル袋等に入れ、密封する。
3. 抜き取った株は、決してほ場周辺に放置せず、市町が行う焼却処理に搬出するなど適切に処分する。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部  
〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088  
TEL (0952)45 - 8153 FAX (0952)45 - 5085